教科・領域等　〔　音楽　〕

22　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために　教材研究
子どもが課題意識を自ら持てるようにし、学習への主体性を深める

☞こんな実践

本時例の小学校では、課題意識をもって活動に取り組んだり友達の考えから自分の表現を高めようとしたりする子どもたちの姿を具現したいと考えている。そこで、打楽器の音色の違いを視点に曲の気分の変化を感じ取ることができる鑑賞の題材を構想し、目指す子どもたちの姿につなげたいと考えた実践です。

学 校 名　Ｓ小学校
実践学年　２学年
実践時期　９月中旬
題 材 名　いろいろな音を楽しもう
学習指導要領との関連　：　Ｂ鑑賞　ア、イ　　（Ａ表現（2）ア、イ（ｲ）及びウ）

○　楽曲を聴いて、どのような学習をしたいのかを子どもたちが決めていく導入場面

「ウッドブロックの音は木の響く音がするね」

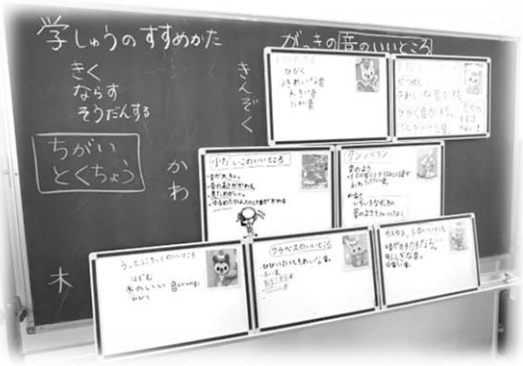
「打楽器パーティー」を鑑賞した子どもたちに、先生が「この曲で音楽の勉強をしていくのだけれど、皆さんはこの曲からどのようなことが勉強できそうですか？」と問いかけます。すると子供たちは「(打) 楽器の演奏の仕方！」「お友達と合わせて演奏できるようになりたい！」「いろいろな楽器の音のいいところを探したい」などと、ことの曲で自分たちが勉強したいと思えることを発言していきます。先生はその子供たちの声を聴きながら「今日はこの曲で勉強する最初の時間だから、今日の授業は打楽器パーティーで使っている楽器の音に気をつけて聴いてみようか」と学習課題を据えました。その課題を受けて子どもたちは、自分がやってみたい楽器ごとのグループに分かれて、音色に気をつけて「打楽器パーティー」を鑑賞します。聞き取った楽器の音色の特徴をホワイトボードに書きながら「音は弾んでいる感じの音だね」「木を打っているかんじの音だよね」等と自然に会話が生まれ、楽器の音色の特徴を見出している姿が見られました。

ここがポイント！

・日常的な授業の中で、何が勉強できるのかを子どもたち自らが考える学習の仕方が身につくように学習を構想することが大切です。
・聴き取ったり感じ取ったりしたことを言語で表すことが定着できるようにするために、学習ツールを低学年から活用しています。

○　学習したことを共有し、学習をまとめる場面が位置付く終末の場面

授業の終末では、子どもたちがつくったホワイトボード（学習ツール）を黒板に張り付けながら、打楽器の特徴を共有する時間を位置付けました。先生は学習ツールを打楽器の素材ごとに分類しながら、打楽器の音色の特徴を発表するよう促しました。



楽器の音の特徴を共有できるようにする

子どもたちは、グループの発表を聴きながら、発表の内容を受けて自分の選んだ楽器の特徴を書き加えたり、考えなおしたりしながら、自分の考えを広げていきます。さらに「打楽器パーティー」を再度聴き直すように促すと、子どもたちは自分が追究した楽器の音色を楽曲の中から聴き取り、演奏する真似をしたり体を揺らしたりしながら聴く姿等、授業の冒頭で鑑賞した時よりも深まった聴き方をしている姿が多く見られました。

本時の最後に、次時からの学習に向けての意欲を高めたいと考え、本時を参観していた先生方による生演奏を位置付けました。演奏が終わった後、先生は「こんなふうに演奏してみたい人！」と子どもたちに問います。すると、全員の子どもが一斉に挙手をしました。身近な先生方が演奏する「打楽器パーティー」を聴いて、子どもたちのこれからの学習に向かう意欲が高まった瞬間となりました。

先生方による参考演奏

ここがポイント！

・子どもたちが学習を通して得たことを、教師が本時の学習のねらいとかかわらせて共有できるようにすることが大切です。
・実際の演奏場面に触れられるようにして、これからの学習への意欲を高められるようにしていくことが大切です。

☞まとめ

楽曲の楽しさに触れ、使用されている打楽器の特徴に気づく資質・能力の高まりにつながる学習が、題材の第１時において実践されることで、題材の学習を支える意欲につながりました。